

町内会の存在価値って何だろう。全住民参加の組織なのに、その活動や会費の使途に疑問を感じる人が増えている。だが、一部には行政の下請けや交流を導く目標を掲げ、資産価値を高め地縁を深める地域がある。第二部では、求められる町内会のあり方を探る。

## 見知らぬ町内会

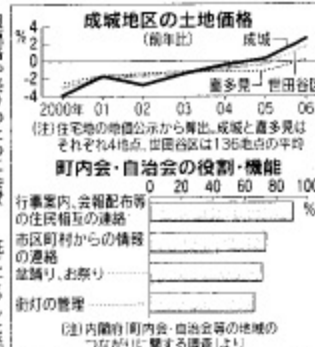
### 第2部 生み出す価値

秋祭りの来場者は一万人以上。築三十年ながら近隣の同年代の物件より価格は三割高。「順番待ちの入居希望者も数千組(三井のリハウス版橋サンシティ直)」。そんなマンションがある。

東京都板橋区の「サンシティ(千八百七十二)」。東京ドーム二・七個分の敷地にある建物は管理が行き届き、中心の里山を思わせる森では子どもたちが駆け回る。管理の主任は住民。だが町内会はない。

「始まりは植樹だった」(サンシティ管理組合の本田典典理事長)。入居者が増えると同様々々クラブ活動が開始。活動は森の手入れや建物の維持管理に自然と広がり、居住環境を高めた。「自分たちのため住民みんなが何かしよう」としている(本田さん)。その意思が地域の価値を高め、地縁という結果をもたらした。

住民交流に不可欠な組織とされてきた町内会。だが、現実には町内会がなくても、実質的な活動をすすめる地域がある。内閣府の「町内会・自治会等の地域のつながりに関する調査」(二〇〇七年)でも、役割・機能と



内閣府の「町内会・自治会等の地域のつながりに関する調査」によると、町内会・自治会がある地域は九二・六%。加入する世帯も九四・一%と高水準を維持している。しかし一方で、町内会などの組織と関係なく、隣近所と情報交換など何らかの協力をしていると考えた人は二九・六%にとどまった。

また、二〇〇六年度の国民生活満足度調査で町内会活動への参加頻度を住民に尋ねたところ「参加していない」との回答は五・二%に達した。「向こう三軒両隣」といった近所付き合いもせず、町内会への参加にも後向きな住民たち。旧来のやり方ではコミュニティの維持自体が難しくなっている。

して上位にあげられたのは「食糧配布など住民相互の連絡(九〇・六%)」、「市区町村からの情報連絡(七三・五%)」。町内会が住民活動の場との意識は薄れているとも受け取れる。

「町内会に入らないといけないのかと相談して入る人が自立」と話すのはリクルートの「住宅情報ナビ」編集長の千葉由美さん。情

既にそうした発想で活動が求められる。「それでは日中は地域にいない単身者やそのいない共働き夫婦には魅力がない」とみる。

だが、千葉さんは相談者には参加するのを勧奨するとう。ヒントがサンシティのような地域の存在(居住環境と資産価値を守る)。町内会はそのために役立ちたい。

世帯に絞るとの苗本を三本配布した。東京都世田谷区の成城地区は、〇二年に自治会が中心となり敷地の緑化など居住環境を守る「成城憲章」を制定。その結果、下落傾向の土地価格は反転し、〇五年には隣の葛多見や区全体に先駆け上昇し始めた。

〇七年には数カ所に防犯カメラを設置。〇八年には全

# 目的は住民交流ですか?



## 資産守る活動 地縁も深める

「行政からの委託業務や防犯・防災活動、街灯管理」。町内会が担う活動は多岐にわたる。住民を引き付ける力を失えば、治安や防犯も深まったという。

行政からの委託業務や防犯・防災活動、街灯管理。町内会が担う活動は多岐にわたる。住民を引き付ける力を失えば、治安や防犯も深まったという。

「行政からの委託業務や防犯・防災活動、街灯管理」。町内会が担う活動は多岐にわたる。住民を引き付ける力を失えば、治安や防犯も深まったという。

## 生活